

イノシシの生態と対策

イノシシは十二支(干支)のひとつで私たちにとってなじみのある動物ですが、意外とその生態は知られていません。被害対策の第一歩は、まずイノシシのことを正確に知り、ほ場周辺の生活痕跡を見逃さないことです。

イノシシの生活痕跡 (フィールドサイン)



生態

食性 雑食性で人間が食べるようなものはすべて食べます。農作物のほか、昆虫やミミズ、ネズミなどの小動物もエサとしています。草や木も食べます。

行動 本来は昼に行動する動物ですが、人の影響が少ない夜間に活発に行動します。落葉広葉樹林や茂み、耕作放棄地や竹林など食料になるものが豊富にあり、身を潜められる場所を好みます。記憶力がよく、侵入に成功した仲間の行動を真似するなど、高い学習能力を持ちます。その一方で警戒心が強く臆病。通りなれたけもの道を往復して移動します。ジャンプ力があり、垂直に1.2mの高さを飛び越えるだけでなく、20cmの隙間もくぐり抜けます。鼻で押し上げる力によって70kgの石を簡単に動かすことができます。

繁殖 交尾期は年に1回で12~2月頃、出産期は4~6月頃。満2歳で初産を迎え、平均4~5頭を産みます。寿命はオスが6歳、メスが10歳程度です。

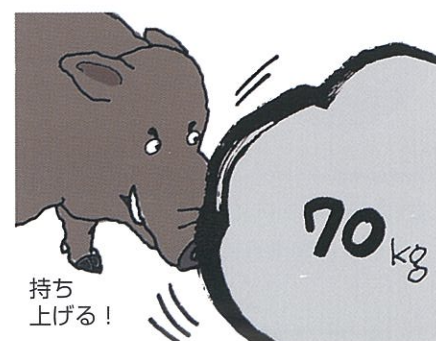
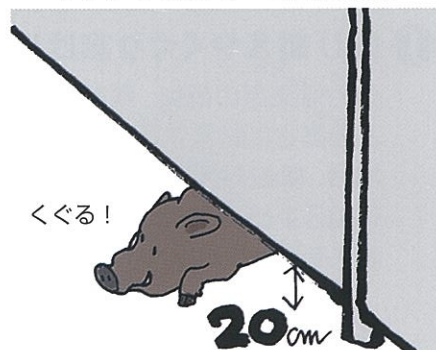
特徴

- “猪突猛進”はパニックになって逆上した時の姿。本来警戒心が強く、臆病で注意深く、あまり人前に姿を現しません。反面、いったん慣れると大胆不敵にもなります。
- 鼻は敏感で、周囲の臭いや感触をさぐる際に使われる一方、地面を掘ることもできます。
- 体毛は太く、剛毛で、電気を通しにくくなっています。

被害状況

最大の被害は根菜類と乳熟期以降の水稻です。水稻では穂の食害のほかに、踏み荒らしとヌタウチによる倒伏もあります。

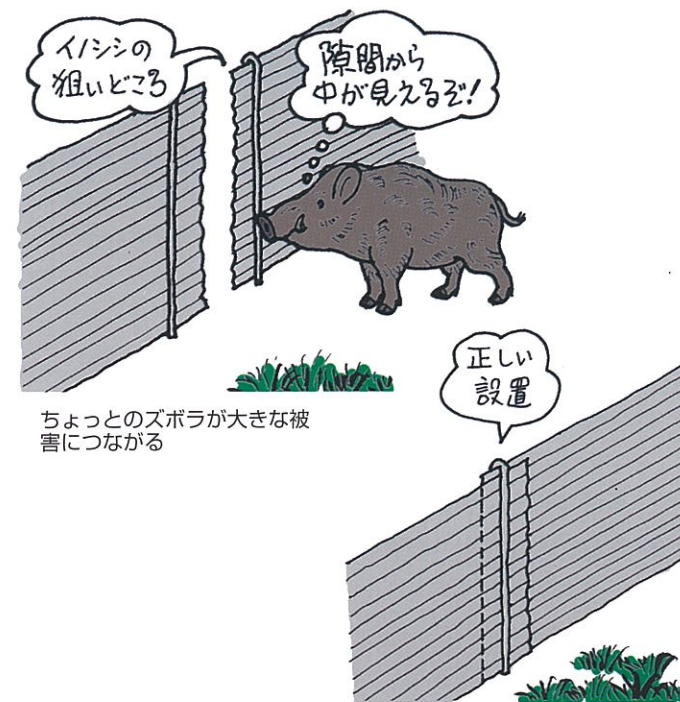
イノシシの驚くべき身体能力



被害防止のためのワンポイント・アドバイス

トタン板

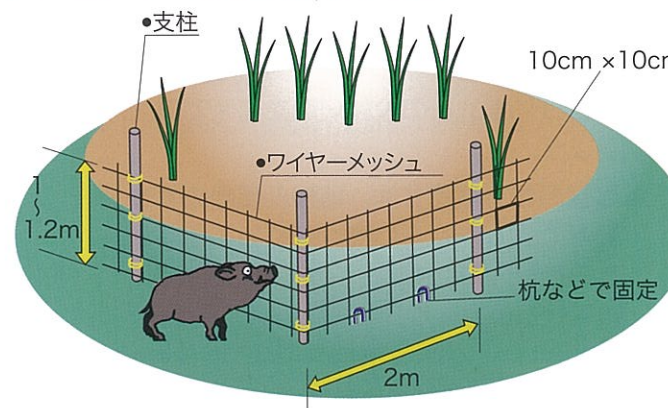
- 視覚を遮断する効果に優れます。
- 1枚だけでは高さが不足するので、2枚継ぎ足しや他の資材との組合せで、高さ1.2m程度まで上げて、飛び越えられないようにしましょう。
- 起伏のある場所では、地面とトタン板のすき間ができて、そこに鼻を入れ、トタン板を持ち上げられるので、凸凹があればよくならし、草など刈った後に設置しましょう。
- トタン板同士の継ぎ目が破られやすいので、重なり部分は厚めにしましょう。
- 押し倒されないように、支柱の強度と設置間隔にも注意して下さい。



ワイヤーメッシュ

- ワイヤーメッシュは、丈夫な綱線を縦横に溶接した建築資材で、視覚的遮断効果はありませんが、強度に優れた柵として利用できます。
- 綱線が細いと折り曲げられ、升目が大きいとウリボウに侵入されます。10cm升目で太さ6mm程度のもを使用して下さい。
- 飛び越えられないように十分な高さ(1~1.2m)を確保しましょう。
- 押し倒されたり、鼻で持ち上げられたりしないように適当な間隔で頑丈な支柱を立てます。
- 地面と接する部分をくぐり抜けられないよう、支柱の間2~3カ所に、杭などで固定するか、竹などを地面に這わせてあてがい、結束して補強します。
- 上部30cmの部分を外側に20度折り曲げると、イノシシが接近しても乗り越えることはできません(右図)。

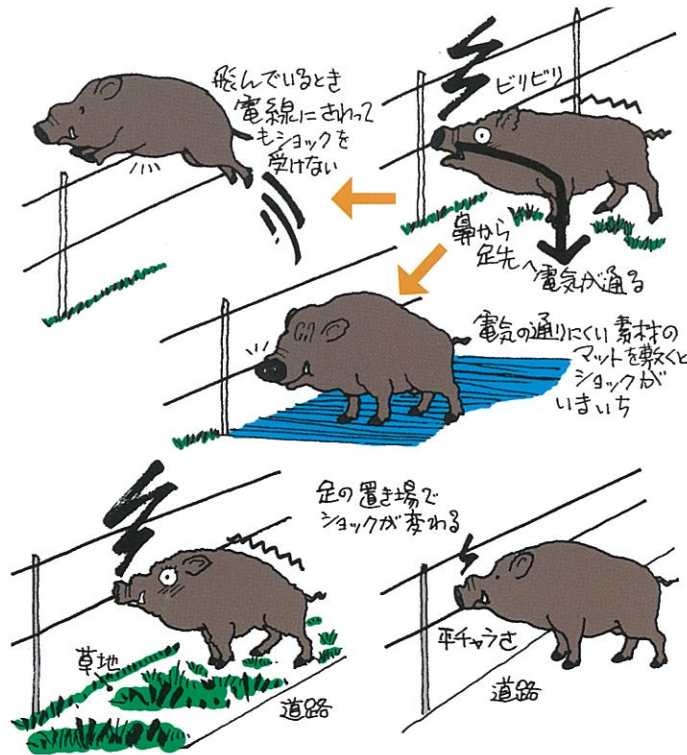
ワイヤーメッシュ柵の設置例



イノシシ用返し付きワイヤーメッシュ柵 (通称：忍び返し柵)

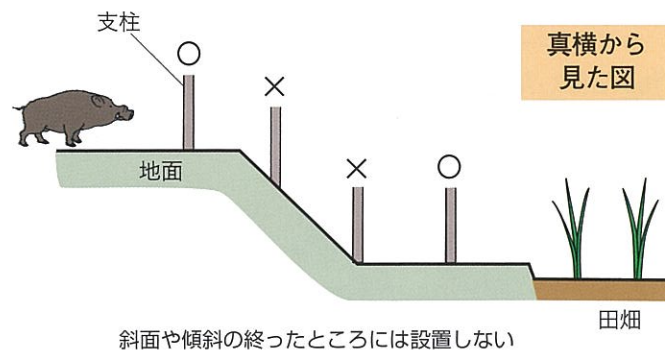
電気柵（ワイヤー式）

- 軽量で設置や収納が容易です。
- 侵入防止効果が高く、何度も狙われている田畑にはお勧めです。
- 背中などの毛皮部分は感電せず、鼻先だけがよく通電します。
- 必ず危険表示を行い、人の感電や火災の恐れがないように設置して下さい。
- 前足が土の上になるよう最低50cmは舗装道路から離して設置します。
- 電線を張り巡らせる高さは、20cm（歩行中の鼻の高さ）、40cm（停止中の鼻の高さ）を基本とし、電気は常に流しておきます。
- 支柱の押し倒しを防ぐため、支柱の外側に電線を張ります。
- 周囲の草刈や通電の確認など、継続した管理を行い、電線の切断や漏電による効果低下に注意して下さい。
- ゴムマットなど電気の通りにくい素材のマットは敷かないで下さい。
- 斜面や斜面の終わったところでは、勢いで突き破られることがあります。部分的に資材を補強するか、助走距離を短くするように電気柵の設置場所を変えてみましょう。
- 起伏のある場所では、地面と電線のすき間ができて、くぐり抜けられることがあるので部分的に支柱を追加し、20cm間隔を確保しましょう。

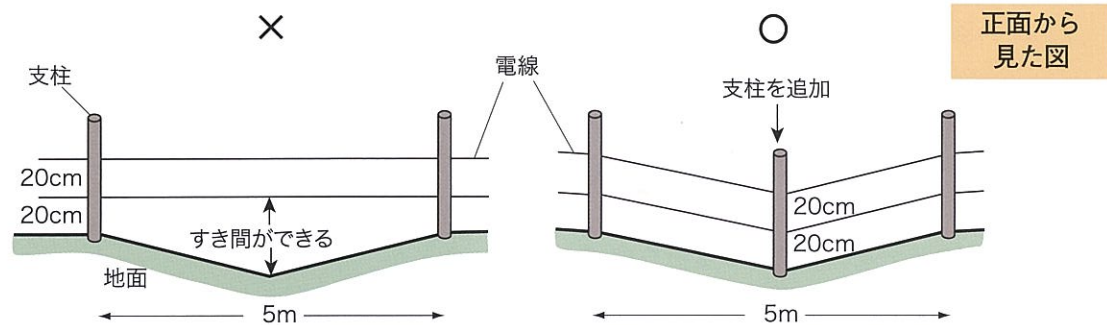


せっきくの電気柵もイノシシが地面に足を着けていないと効かない

電気柵の設置場所に注意しましょう！



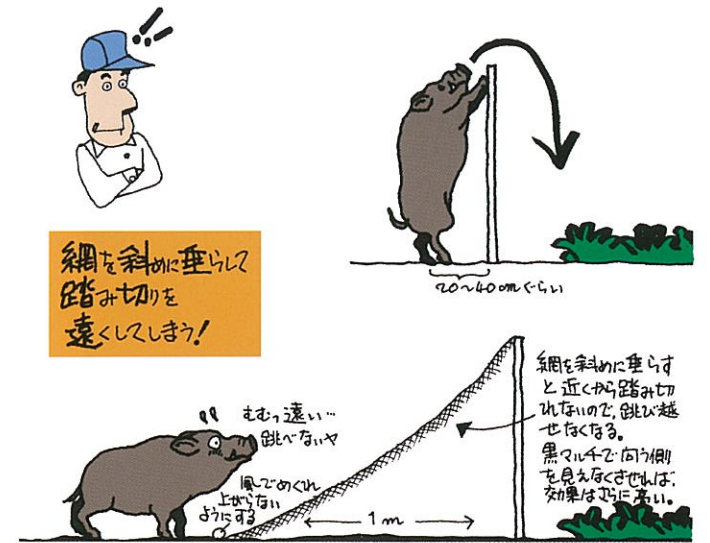
斜面や傾斜の終わったところには設置しない



起伏のある所では、地面とのすき間ができないように設置する。

ネット類

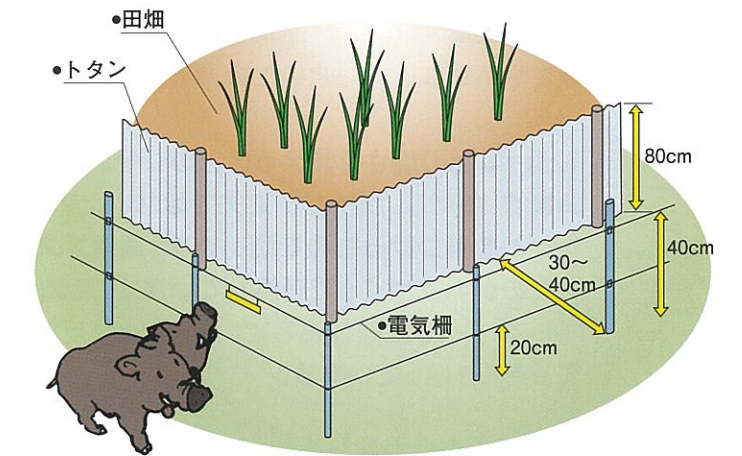
- 起伏のある場所や斜面の多い場所でも設置が容易です。
- 編み目を押し広げられたり、食い破れたりしないように目合いが10cm以上のものは避け、丈夫なものを選びましょう。
- くぐり抜けられないように接地面を折り返したり、杭などで固定しましょう。
- イノシシの踏切位置は、柵などの障害物から20～40cmほど。柵から手前に1mくらいの幅でネットを斜めに垂らすと、踏切位置が遠くなり、飛び越えを防止することができます。



イノシシの跳び込み防止には網をうまくつかう

トタン板+電気柵（ワイヤー式）

- 電気柵による侵入防止効果に加え、トタン板で視覚も遮断することにより設置効果が高い設備です。
- トタン板をほ場側、電気柵はイノシシの侵入する側で、間隔を30～40cm程度離して設置します。
- 各資材を組み合わせる場合は、それぞれの弱点を補うようにします。島根県では、畦波板+電気柵（ワイヤー式）も普及しています。



トタン板で目隠しし、電気柵で踏み切りを遠くする

その他

- 忌避剤（木酢液、人間の毛髪、芳香剤など含む）
環境の変化に戸惑うだけで、臭いには必ず慣れますので、期間限定、一時的な嫌がらせとして使用して下さい。
- 天敵（人間）
野生動物にとって一番怖いものは人間です。最も防除効果が高いのは、これまでになかった人の活発な動きです。
- 草刈り
草刈りで柵の周囲の見通しを良くし、隠れ場所をできるだけなくすことで、簡単な柵でも設置効果を上げることができます。



イノシシの唯一の天敵は人間